

2018年2月4~5日

名護市長選挙

名護市長選、自公推薦の新人当選＝政府、辺野古移設を加速



名護市長選挙で当選し、支援者らと笑顔で写真に納まる渡具知武豊氏（中央）＝4日午後、沖縄県名護市

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）移設問題が最大の争点となった同県名護市長選は4日、投開票され、同市辺野古への移設を推進する与党が推した新人で元市議の渡具知武豊氏（56）＝自民、公明、維新推薦＝が初当選した。移設阻止を掲げ、翁長雄志知事の支援を受けた現職の稲嶺進氏（72）＝民進、共産、自由、社民推薦、立憲支持＝は3期目を目指したが、3400票余り及ばなかった。

昨年4月に政府が辺野古の護岸工事に着手して以降、初めての市長選で、渡具知、稲嶺両氏の一騎打ちとなった。安倍政権は、沖縄で相次ぐ米軍機トラブルやこれに関連した国会やじによる内閣府副大臣の引責辞任で危機感を強めていたが、渡具知氏の勝利を受け、移設工事を加速する方針。市長選は秋の知事選に向けた前哨戦との位置付けで、与党はこれを弾みに翁長氏への対抗馬擁立作業を急ぐ。一方、民意を背景に移設阻止を訴えてきた翁長氏にとって、「本丸」と言える名護での敗北は痛撃で、再選戦略は再考を迫られる。

安倍晋三首相は4日夜、渡具知氏の陣営関係者に「沖縄の風向きも変わった」と電話で語った。翁長氏は記者団に、渡具知氏が辺野古移設への賛否を明確にしない戦術を取ったことを念頭に「争点外しでなかなか理解されないのは残念だった」と述べた。

渡具知、稲嶺両陣営とも、推薦した政党の幹部が相次いで名護入りし、総力戦を展開した。渡具知氏は、前回自主投票だった公明党の推薦を取り付けたことが奏功。国との協議を通じて予算を獲得し、市民生活の向上に努めると主張して支持を集めた。

一方、稲嶺氏は「工事は、まだ止めることができる」と訴えたが、市民の諦めムードを払拭（ふっしょく）し切れなかった。

投票率は76.92%で前回は0.21ポイント上回っ

た。期日前投票者数が有権者数の約44%に当たる2万1660人と過去最多だった。

渡具知氏の任期は8日から4年間。

◇渡具知武豊氏略歴

渡具知 武豊氏（とぐち・たけとよ）第一経済大（現日本経済大）卒。自営業を経て98年名護市議。56歳。名護市出身。

◇名護市長選確定得票

当 20,389 渡具知武豊 無新

16,931 稲嶺 進 無現

（時事通信 2018/02/05-03:31）

激戦制した新人・渡具知氏＝地域振興訴えに手応え＝経済優先に悔しさ・現職稲嶺氏



名護市長選挙で当選確定となり、ポーズを取る渡具知武豊氏（手前）＝4日夜、沖縄県名護市

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設の是非が最大の争点になった名護市長選挙。同市辺野古への移設を進める安倍政権が推す新人の渡具知武豊氏（56）の事務所では、4日午後10時半ごろ、当選確実が伝わり、拍手と歓声が一斉に湧き起こった。激戦を制した渡具知氏は「市民の名護を変えたいという思いだ」と述べ、地域振興を中心にした訴えが有権者に届いたことに自信を見せた。

渡具知氏は選挙中、基地問題には踏み込まず、経済活性化や子育て支援、病院の整備などを訴えた。基地建設阻止を訴えた現職の稲嶺進氏（72）の2期8年について「市民に閉塞（へいそく）感があつた」と語り、勝因を分析した。

在日米軍再編に協力する自治体に支払われる米軍再編交付金は現在、名護市には交付されていない。渡具知氏は「誠実に名護の現状を国に話して、必要な予算をお願いする」とも話した。



名護市長選挙で敗北が確実となり、記者団の取材に応じる稲嶺進氏＝4日夜、沖縄県名護市

一方、稲嶺氏は事務所に着した直後に、敗戦の情報が伝わった。稲嶺氏はぼうぜんとした表情で、多くの支援者が駆け付けた会場は静まり返った。

稲嶺氏は口を真一文字に結んでいたが、その後手で口元を覆い、涙をぬぐった。記者団の取材には「真摯(しんし)に受け止めないといけない。(将来の)安全安心というのを訴えてやって来たが、結局は目の前の経済優先という形になってしまったことが、とても残念」と、悔しさをにじませた。

隣に座って情勢を見守っていた翁長雄志知事も「子どもたちのことも考えしっかり実績を積んできたが、理解いただけなかったのが大変残念」と語った。(時事通信 2018/02/05-01:39)

米政府、移設に弾みと歓迎＝不満高まりに懸念も一名護市長選

【ワシントン時事】米軍普天間飛行場の移設予定地の沖縄県名護市の市長選で、移設推進の自民、公明両党が推す新人・渡具知武豊氏が勝利したことに、米政府は表立った反応を控えている。ただ、名護市辺野古への移設を「唯一の解決策」とする立場から、移設実現に弾みがつくと歓迎しているとみられる。

「米国はいかなる立場も取らず、いかなるコメントもない」。国務省の広報担当者は市長選の動向について、一切の論評を避けた。沖縄で相次いだ米軍機の事故やトラブルが選挙結果に影響しかねないとの見方もあっただけに、県民感情を刺激したくない思いがのぞく。

投票直前の2日にトランプ大統領が安倍晋三首相との電話会談に応じたのも、米軍機の安全確保に真剣に取り組む意向を伝え、選挙戦への影響を回避するためだ。

翁長雄志県知事や稲嶺進名護市長が移設阻止を掲げる中、日本政府は昨年、埋め立てに向けた護岸工事に着手。与党推薦の候補が勝利したことで、米国の識者の間では「辺野古阻止の運動はいずれ行き詰まる」という見方が出ている。

ただ、伯仲した選挙結果が示すように、移設反対論は根強く、11月に予定される知事選で再選を目指す翁長氏が勝利すれば、反対派が再び勢いづく可能性もある。元国務省職員でジョージ・タウン大学のウィリアム・ブルックス非常勤教授は「反対運動にもかかわらず移設工事が進み、県民は欲求不満を抱えている。米軍機の事故がさらに続くようだと不満は沸点に達しかねない」と指摘している。(時事通信 2018/02/04-23:12)

辺野古反対の現職敗れる 名護市長に安倍政権が支援の新人

共同通信 2018/2/4 23:52

沖縄県名護市辺野古への米軍普天間飛行場(宜野湾市)の移設が最大の争点となった名護市長選は4日投票の結果、移設を進める安倍政権が支援した元名護市議の無所属新人渡具知武豊氏(56)＝自民、公明、維新推薦＝が、反対を訴えた無所属現職稲嶺進氏(72)＝民進、共産、自由、社民、沖縄社大推薦、立民支持＝を破り初当選した。

安倍政権は移設に賛同する民意が示されたとして、昨年4月に着手した辺野古沿岸部の護岸埋め立て工事を加速させる方針。反対を掲げる翁長雄志知事が全面支援した稲嶺氏の敗北で、翁長氏の求心力低下は避けられず、12月に任期満了を迎える知事選に影響しそうだ。

与党、沖縄知事選へ弾み 野党は共闘実現も及ばず

共同通信 2018/2/4 23:56

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設先がある沖縄県名護市の市長選で4日、移設工事を進める安倍政権が支援した新人が当選を決めたことで、与党内には「有権者が経済や暮らしを重視する訴えに耳を傾けた。秋の沖縄県知事選に弾みがつく」(自民党幹部)と歓迎する声があがった。国政での足並みの乱れを乗り越え、移設反対の現職支援で共闘した野党は「力及ばなかった」(民進党の篠原孝選対委員長)と悔しさをにじませた。

昨年末から沖縄では米軍機のトラブルが相次ぎ、自民党の松本文明衆院議員はそれに関連するやじを飛ばして内閣府副大臣を引責辞任していた。

名護市長選、自公系の新顔当選 現職・稲嶺氏を破る

朝日新聞デジタル上遠野郷 2018年2月4日 23時32分



当選を決め、万歳する

渡具知武豊氏(中央)＝4日午後10時38分、沖縄県名護市、小宮路勝撮影



劣勢が伝えられるテレビ中継を見つめる稲嶺進氏(右)と翁長雄志・沖縄県知事＝4日午後10時34分、沖縄県名護市、日吉健吾撮影
沖縄県名護市長選が4日投票され、米軍普天間飛行場

移設計画を事実上容認する前市議で新顔の渡具知(とぐち)武豊氏(56)＝自民、公明、維新推薦＝が、反対する現職稲嶺進氏(72)＝民進、共産、自由、社民、沖縄社会大衆推薦、立憲支持＝を破り、初当選を果たした。辺野古で移設工事が進む中、市民は、反対を主張し続けてきた稲嶺氏を選ばなかった。投票率は76・92%だった。

移設問題が浮上してから6度目の市長選。翁長(おなが)雄志(たけし)知事は移設に反対しているが、安倍政権は「地元の理解が得られた」として工事を加速させるとみられる。一方、翁長知事は苦しい立場に立たされる。

結果を受け、渡具知氏は報道陣に「名護を変えてくれ、明るい街に発展させてくれということだと思う」と語った。辺野古移設については「裁判の結果に従う」と述べるにとどめた。

選挙戦で渡具知氏は「基地問題にこだわり過ぎ、経済を停滞させた」と稲嶺市政を批判し、学校給食費の無償化や観光振興などを中心に訴えた。移設問題については「国と県の裁判を見守る」と繰り返す一方、米軍再編への協力が前提となる再編交付金を受け取って市の振興に活用すると主張してきた。

自民党は知名度の高い国会議員を次々と応援に派遣し、小泉進次郎・筆頭副幹事長は選挙期間中に2度、応援に訪れた。党幹部からも昨年末から水面下で何度も沖縄に入り、全面的に支援した。

一方、稲嶺氏は結果を受け「残念ながら、辺野古移設の問題がなかなか争点となりえなかった」と話した。選挙戦では、市長を務めた2期で、国からの米軍再編交付金がなくても地域振興を進めてきたと主張。「移設を受け入れて、子どもや孫に危険を残してはいけない」と「移設反対」を前面に出して訴えた。

翁長知事もほぼ連日、名護市に入り「基地は経済発展の邪魔になる」と街頭などで繰り返し訴えたが、支持は広がらなかった。結果について翁長知事は「争点はずしをされたというのは残念だった。厳しい結果。これからいろいろ相談をしながら、やっていきたい」と述べた。(上遠野郷)

辺野古移設「法律に従う」 名護市長に当選した渡具知氏 朝日新聞デジタル安田桂子 2018年2月5日 00時11分



当選し、次女の志織さんから花束を受け取る渡具知武豊氏＝4日午後10時39分、沖縄県名護市、小宮路勝撮影

無所属新顔の自民系前市議、渡具知(とぐち)武豊氏(56)は午後10時半ごろ、当選が決まると、選挙事務所に詰めかけた支援者らの大歓声に笑顔で応えた。支援者が万歳三唱する中、何度も頭を下げた。報道陣に囲まれた渡具知氏は、辺野古移設について問われると、硬い表情で「何度も申し上げていますが、行政の長は、法律に従う、それ以上のことはできない」と述べた。

国との関係についての質問には「誠実に名護の現状をお話し、必要な予算はお願いするということになるろうかと思えます」と語った。

選挙戦では企業や団体をこまめに回り、組織票固めに力を入れた。訴えの柱は、福祉政策の充実と経済振興。現市政を「名護市を停滞させた」と批判し、若い支持層を意識して映画館の誘致なども政策に盛り込んだ。

米軍普天間飛行場の辺野古への移設問題にはほとんど触れない一方、「名護のリーダーとして東京に行き、予算を要求する」など国と柔軟に交渉していく姿勢を強調。自民、公明は国会議員を続々と投入。支持を広げた。(安田桂子)

落選の稲嶺氏「真摯に市民の選択受け止め」 名護市長選 朝日新聞デジタル 小山謙太郎 2018年2月5日 00時37分



敗戦の弁を述べる稲嶺進氏＝4日午後10時44分、沖縄県名護市、日吉健吾撮影

現職の稲嶺進氏(72)は、支持者が集まる後援会事務所で相手候補の当選の一報に触れると、「名護市民の選択の結果で、真摯(しんし)に受け止めないといけない」と話した。

辺野古移設を最大の争点に位置づけ、「市長権限と知事権限を行使すれば、工事はまだ止められる」と移設反対を訴えた。政策面でも地域基幹病院の統合新設などで、翁長(おなが)雄志(たけし)知事との連携を強調した。

待機児童の解消や学校耐震化など2期8年の実績を語り、パンダ誘致による観光振興も打ち出したが、支持は広がらなかった。(小山謙太郎)

民意支えに移設反対の翁長知事、苦境に 稲嶺氏落選 朝日新聞デジタル那覇総局長・上遠野郷 2018年2月5日

05 時 06 分



稲嶺進氏の敗戦を受

け、記者の質問に答える翁長雄志・沖縄県知事＝4日午後10時54分、沖縄県名護市、日吉健吾撮影



辺野古移設に反対する名護市民は、世論調査では依然6割を超える。ではなぜ、移設を事実上容認する渡具知（とぐち）武豊氏を選んだのか。

沖縄にはいま「あきらめ」が広がる。

自分たちの市に造られようとしている基地の問題を、自分たちで決められない。稲嶺進氏が再選された4年前の名護市長選以降、市民は知事選や2度の衆院選、参院選でいづれも「移設反対」を訴える候補を選んできた。しかし安倍政権は「辺野古移設が唯一の解決策」と繰り返し、昨年4月からは移設工事を本格化させた。国と県の話し合いは途絶えたままだ。

さらに、沖縄では米軍機の事故やトラブルが相次いでいる。そのたびに沖縄は抗議しているが、米軍機はすぐに頭上を飛び、日本政府は追認する。

ある市民が言っていた。「移設に反対する稲嶺氏は正しい。辺野古が止まる可能性があるなら投票する。でも、無理でしょう」

民意を「無視」され続け、基地建設が目の前で進む。そんな中、新顔の渡具知氏は子育て支援や観光振興を中心に訴え、政府に対しては「東京に足を運び、市民のために予算を要求する」と主張した。たとえ「移設容認」「条件闘争」だったとしても、自分たちの意見を政策に反映させたい。そして生活を少しでも豊かにしたい——。渡具知氏の勝利は、市民がそう考えた結果といえる。

稲嶺氏の落選で、民意を支えとして移設反対を訴えている翁長雄志（おながたけし）知事は、苦しい立場となった。辺野古の工事も加速するだろう。

しかし、安倍政権の言う「地元の理解」という状況にはほど遠いことを、政権も私たちが忘れてはいけない。（那覇総局長・上遠野郷）

名護市長選、公明票の動きがカギに 朝日新聞出口調査

朝日新聞デジタル峰久和哲 2018年2月5日 05時00分

4日投開票された沖縄県名護市長選では、新顔の渡具知武豊氏が与党支持層の票をしっかりと固めて初当選した。現職の稲嶺進氏は、米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に反対する人の票をまとめ切れなかったのが敗因となった。

朝日新聞社は4日、市内12投票所で出口調査を実施し、1382人から有効回答を得た。期日前投票でも全日程で出口調査を実施した。有効回答は2340。

当日、期日前ともに、自民支持層の8割以上が渡具知氏に投票。立憲、共産、社民各党の支持層は9割以上が稲嶺氏に投票した。

渡具知氏当選の大きな決め手になったのは、前回自主投票だった公明党が選挙戦に本格的に参入したことだ。前回は期日前、当日とも出口調査回答者のうち公明支持層の割合はわずか2%にとどまっていたが、今回は期日前で6%、当日で4%と、存在感を高めた。

投票の中身も大きく変化した。…

名護市長に新人・渡具知氏…移設反対の現職破る

読売新聞 2018年02月04日 22時46分



名護市長選で当選が確実になり万歳して喜ぶ渡具知武豊氏（前列中央）と支援者ら（4日午後10時37分、沖縄県名護市の事務所で）＝大野博昭撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設の是非が焦点となった沖縄県名護市長選は4日投開票され、移設を容認する自民党県連などの支援を受けた新人の前市議・渡具知武豊氏（56）（無＝自民・公明・維新推薦）が、移設に反対する現職の稲嶺進氏（72）（無＝民進・共産・自由・社民推薦、立民支持）を破り、初当選を決めた。

おながたけし

同市長選は、移設反対を掲げる同県の翁長雄志知

事と政府・与党との「代理戦争」と位置づけられていた。

名護市長選 渡具知氏が初当選 移設反対の現職破る

毎日新聞 2018年2月4日 22時39分(最終更新 2月5日 00時16分)

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画の是非が問われた名護市長選が4日投開票され、移設を進める安倍晋三政権が推した新人で元市議の渡具知（とぐち）武豊氏（56）＝自民、公明、維新推薦＝が、辺野古移設に反対する翁長雄志知事が支援した現職の稲嶺進氏（72）＝共産、自由、社民、民進、地域政党・沖縄社会大衆推薦、立憲民主支持＝の3選を阻み、初当選した。

政府は選挙結果を受けて移設工事を着実に進める方針で、今夏にも辺野古の海の埋め立てで土砂の搬入を目指している。一方で翁長知事は地元・名護市の反対という「民意」を失い、移設阻止の道のりはさらに険しくなった。沖縄では今秋に知事選が予定されており、翁長知事にとっては、再選に向けても厳しい環境になった。【佐藤敬一】

渡具知氏は勝因「名護を変えてくれ、有権者の強い思い」

選挙戦では渡具知氏が移設について言及しないで地域振興を訴える一方で、稲嶺進氏は移設反対を強調した。

当選を確実にした後、渡具知氏は勝因について「（有権者の中に）名護を変えてくれ、もっと明るい街に発展させてくれ、という強い思いがあった」と述べた。

稲嶺進氏「争点をはぐらかされてしまった」



敗色が濃厚となった稲嶺進氏（右）。左は沖縄県の翁長雄志知事＝沖縄県名護市で2018年2月4日午後10時32分、津村豊和撮影

稲嶺進氏は「結果は真摯（しんし）に受け止めないといけない。争点をはぐらかされてしまった」と語った。

名護市長選、辺野古移設容認派の渡具知氏が初当選

日経新聞 2018/2/4 22:38 (2018/2/4 23:01 更新)

沖縄県名護市長選が4日、投開票され、元名護市議で無所属新人の渡具知武豊氏（56）＝自民、公明、維新推薦＝が当選した。米軍普天間基地（同県宜野湾市）の名護市辺野古への移設計画が争点で、渡具知氏は移設を進める政府・与党の全面支援を受けた。

反対派の無所属で現職の稲嶺進氏（72）＝民進、共産、自由、社民推薦、立憲民主支持＝は3選を目指したが及ば

なかった。投票率は76.92%で、前回2014年を0.21ポイント上回った。

移設先の地元として結果が注目されていた。事実上移設容認派の市長が8年ぶりに誕生する。名護市長は辺野古工事に関する権限を持っており、政府は今後、工事を加速するとみられる。

渡具知氏は市議時代に辺野古移設を容認していたが、選挙戦では「国と県の裁判を注視する」と述べるにとどめていた。現市政が受け取っていない移設に伴う米軍再編交付金については、受け取りに意欲を示していた。

1996年に日米が普天間返還で合意して以降、名護市長選は6回目。今回は昨年4月に政府が辺野古の護岸工事に着手して以降、初めての市長選となった。秋の知事選の前哨戦とも位置付けられた。

与党は沖縄知事選へ弾み、野党は共闘実現も及ばず

日経新聞 2018/2/5 0:06

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の移設先がある沖縄県名護市の市長選で4日、移設工事を進める安倍政権が支援した新人が当選を決めたことで、与党内には「有権者が経済や暮らしを重視する訴えに耳を傾けた。秋の沖縄県知事選に弾みがつく」（自民党幹部）と歓迎する声広がった。国政での足並みの乱れを乗り越え、移設反対の現職支援で共闘した野党は「力及ばなかった」（民進党の篠原孝選対委員長）と悔しさをにじませた。

自民党の塩谷立選対委員長は記者団に「基地への対応と、地元の経済、教育、福祉を両立させようという訴えが市民に理解された」と勝因を分析。名護市辺野古への移設工事を「計画通り進めていく」と明言した。

公明党の斉藤鉄夫選対委員長はコメントで「『活気あふれる名護』という候補の訴えに、8年間停滞した市政を転換したいという市民の思いが重なった」と強調した。

昨年未から沖縄では米軍機のトラブルが相次ぎ、自民党の松本文明衆院議員はそれに関連するやじを飛ばして内閣府副大臣を引責辞任した。塩谷氏は「危機感を持って対応したが、結果を左右するような影響はなかった」と安堵した。

与党と共に新人を推した日本維新の会の馬場伸幸幹事長は「多数の民意を得たのは喜ばしい」との談話を出した。

敗れた現職は国政の5野党が支援した。篠原氏は談話で「結果を厳粛に受け止め、今後の糧とする」と表明。自由党の小沢一郎共同代表は「辺野古移設反対の立場が選挙結果につながらなかったのは誠に残念だ」との談話を発表した。社民党の又市征治幹事長は「辺野古移設問題の争点隠し戦術に加え、安倍政権の大攻勢の前に残念ながら及ばなかった」と談話で無念さをのぞかせた。〔共同〕

「出馬大義なくなる」 翁長知事 再選戦略に狂い 名護

市長選 辺野古移設反対派が敗北

2018/2/4 23:42 情報元日本経済新聞 電子版

「前から言っている通り、その時々判断になるかどうかと思う」。4日夜、沖縄県名護市長選で敗れた現職、稲嶺進の事務所には知事の翁長雄志も姿をみせたが、終始、硬い表情を崩さなかった。記者団から今秋の知事選への対応を問われると、慎重な言い回しに終始した。



敗戦が伝わりうつむく翁長知事（左）と稲嶺氏（4日、沖縄県名護市）

今回の市長選で翁長は公務の傍ら、連日、名護に入り、米軍普天間基地（宜野湾市）の辺野古への移設反対で足並みをそろえる稲嶺の選挙戦を支援した。辺野古の久辺3区にも知事就任後、初めて入り「目の前にぶら下がるエンジンを追っかけても2年、3年（が限度）だ」と移設容認派が多い住民に訴えた。

翁長が危機感を抱く背景には秋に控える知事選がある。翁長は辺野古移設反対で政府と対立する。翁長は地元の「沖縄の民意」を主張するが、稲嶺が負ければ、理論は根底から崩れてしまう。

「名護で負ければ知事選に出る大義がなくなってしまう」。1月上旬、翁長支持のある有力関係者は翁長から電話を受けた。この関係者は「運動を盛り上げるための方便だろう」と受け止めたが、実際、翁長の動きはその危機感を表すものだった。

今回の敗北は翁長の再選戦略を大きく揺るがす。ただでさえ辺野古埋め立てを巡る国との訴訟で翁長の主張は退けられた。よりどころは民意。それが足元で崩れた。

知事選をにらみ、春に訪米して基地負担軽減を直接訴える計画だ。知事選と同日に、辺野古移設の是非を問う「県民投票」の構想や、埋め立て承認の「撤回」も今後、検討が進められるはずだった。

しかし名護で負けたことで、いずれも効果や実現性に疑問符が付くことになる。加えて、翁長の知事選出馬そのものも流動的となった。

政府・与党側は勢いづきそうだ。辺野古移設に関わる県内の主要首長ポストの一つを崩し、反対派の勢いをそぐ効果が見込める。翁長を支持する「オール沖縄」の求心力が低下すれば、今年予定される多くの市長選で与党側にはプラス材料となる。

知事選の候補者擁立に向けては、自民党県連は近く選考委員会で絞り込みを始める。もともと高い支持率を誇る翁長への対抗馬擁立は難航が予想された。名護の勝利は弾みとなり、現時点で元副知事や企業経営者などの名前が挙がっている。

振り返ると名護は全県の民意も占ってきた。日米が普天間返還に合意した1996年以降、名護市長選と知事選は結果が連動した。年明けに名護、その年の秋に知事選が行われるが、過去5回のうち4回は、移設を巡り、名護で勝った勢力が知事選も勝ちとっている。

今秋の知事選で保守派が勝てば、知事と名護市長の両方を8年ぶりに占めることになる。（敬称略）＝那覇支局 酒井恒平

政府、辺野古移設を加速へ 反対派「民意」に陰り

2018/2/4 23:07 情報元日本経済新聞 電子版

4日投開票の沖縄県名護市長選で、与党などが推薦する元名護市議で新人の渡具知武豊氏が、米軍普天間基地（同県宜野湾市）の代替施設の受け入れに反対する現職の稲嶺進氏を破った。与党には秋に予定する沖縄県知事選への大きな弾みになり、政府は名護市辺野古への移設作業を加速する。北朝鮮の核・ミサイル開発で緊迫するなか、日米同盟の安定につながるとみられる。

与党が全面支援した渡具知氏は、辺野古移設の是非には直接触れず、政府と協調して福祉や経済振興などを進める考えを主張し続けた。稲嶺氏は辺野古への移設反対を前面に出して訴えたが、民意は「基地」よりも「経済」を優先した。沖縄県では昨年からの米軍ヘリコプターのトラブルが相次ぎ、国会では松本文明前内閣府副大臣が「それで何人死んだんだ」と不適切なやじを飛ばした。米軍ヘリに関する一連の問題の選挙への波及が想定されたが、結果には影響しなかった。

稲嶺氏を支援してきた翁長雄志知事にとっては、基地移設反対の民意が盛り上がらなかった結果を受け、秋の知事選に向け大きな不安を抱えることになった。移設反対派を糾合してきた翁長氏に対し、与党は対立候補の擁立を急ぎ、知事選に備える。与党は今回の勝利を足掛かりに、知事選を勝利して辺野古移設を着実に進めたい考えだ。

辺野古移設を巡っては2016年12月、埋め立て承認取り消しを撤回しない翁長知事の対応が違法との司法判断が確定している。政府は移設工事を本格化させている。地元住民には「市長が反対を唱えても止められない」との冷めた見方がある。

政府関係者は「辺野古工事を進める上で障害となっていた名護市との協議が進められる」と話す。地元の名護市はいくつかの工事で同意を得なければいけない権限を持っている。例えば、埋め立て予定地に流れこむ美謝川は、河口が塞がれてしまうため工事で水路を変更しなければなら

い。政府は条例によって工事には市との協議が必要になるため、棚上げしていた。こうした作業にも今後着手する見通しだ。

96年に日米が普天間返還で合意したのは、市街地にある同基地の危険性が高いためだ。仮に大規模な事故が発生すれば、沖縄県の基地感情が悪化し、安定的な米軍の駐留が難しくなる可能性がある。早期に移設できれば、日米同盟にとってのリスクを早く除去することになる。

普天間基地は海兵隊のヘリコプター部隊を配備している。沖縄県には海兵隊の航空、陸上、後方支援の部隊、司令部機能が集まり「第3海兵遠征軍」の司令部を置く。3つある米海兵隊の「遠征軍」のうち、米国外にある唯一のものだ。

そのため、沖縄を中心とした海兵隊は、活動範囲がインド洋やペルシャ湾にまで及び、日本周辺だけでなくアジア太平洋全体での抑止力に重要な役割を果たす。米国が2003年に戦争したイラクにも沖縄から海兵隊を派遣した。

特に朝鮮半島有事では、沖縄の海兵隊による機動力と即応性が不可欠になる。北朝鮮が核・ミサイル実験を繰り返す、東アジアでは緊張が続いている。米国による対北朝鮮への圧力は、米軍の軍事力が裏付けるものだ。ニコルソン在日米海兵隊司令官は「韓国に焦点を当てた訓練に多くの時間を費やしている」と話す。対北朝鮮問題でも日米同盟の基盤固めにつながるとみられる。

産経新聞 2018.2.4 22:55 更新

【名護市長選】安倍政権支援の渡具知氏が初当選 「名護を変えての思い」

米軍普天間飛行場＝沖縄県宜野湾（ぎのわん）市＝の同県名護市辺野古移設問題が最大の争点となった名護市長選は4日、投開票され、無所属新人で元市議の渡具知武豊（とぐち・たけとよ）氏（56）＝自民、公明、維新推薦＝が、3期目を目指した無所属現職の稲嶺進氏（72）＝民進、共産、自由、社民、沖縄社大推薦、立民支持＝を破り、初当選を決めた。投票率は76・92％で、前回（76・71％）を0・21ポイント上回った。

安倍晋三政権が全面支援した渡具知氏の勝利で、辺野古移設を加速させる環境が整い、移設の早期実現へ大きく前進しそうだ。

初当選を決めた渡具知氏は「当選は『名護を変えて、もっと発展させてくれ』というみなさんの思いだと思う。これからが大事だ」と強調。普天間飛行場の名護市辺野古への移設については「国と県が係争中なので注視していく」と述べた。

名護市長選は、辺野古移設を着実に進めたい安倍政権と、反基地を貫く「オール沖縄」勢力の象徴、翁長雄志（おなが・たけし）知事による「代理戦争」の構図だった。今秋に控える知事選の前哨戦にも位置づけられ、両陣営は国政

選挙並みの総力戦を展開した。

移設阻止を訴えてきた稲嶺氏が敗北したことで、翁長氏がこれまで移設反対の大義としてきた「民意」が崩れた格好。安倍政権にとっては、秋の県政奪還に向けて大きな弾みとなった。

渡具知氏は自民党の推薦に加え、前回の市長選で自主投票とした公明党の推薦を受けた。市議時代には辺野古移設推進の立場をとってきたが、同党内の移設への慎重論に配慮し、市民生活の向上や経済振興などを争点として強調。政府との協調路線を打ち出し、稲嶺市政時代に停止されていた米軍再編交付金も活用した新たな名護市づくりに取り込むと訴えた。

稲嶺氏は共産党はじめ革新勢力の組織的な支援を背に、告示前には渡具知氏に先行していた。選挙戦でも「辺野古に基地は造らせない」と移設反対を前面に掲げていたが、展望なき移設阻止に偏り過ぎた「空白の2期8年間」に対する不満が市民に徐々に浸透。国と対立し、市民の暮らしや地元振興などが置き去りにされた現状の打開を望む「民意」に退場を突きつけられた。市民の間に「辺野古移設は止められない」というムードが広がっていることも敗因となったとみられる。

稲嶺氏の敗北により「オール沖縄」勢力の瓦解の流れも強まりそうだ。稲嶺氏と二人三脚で辺野古阻止を主導してきた翁長氏は、次期知事選への態度を明言していないが、再選出馬への戦略の見直しが迫られる。

政府は昨年4月、辺野古沿岸部の護岸埋め立て工事に着手した。県は工事差し止めを求めて提訴したが、政府は工事を進めている。

産経新聞 2018.2.5 01:07 更新

【名護市長選】茫然自失の稲嶺氏 陣営到着と同時に敗北確定 「移設問題がはぐらかされた…」



落選が決まり、敗戦の弁を述べる稲嶺進氏。翁長雄志沖縄県知事（左端）ら支援者は落胆の表情を見せた＝4日夜

激しい選挙戦を繰り広げた沖縄県名護市長選。約3400票差で新人候補に敗れた無所属現職の稲嶺進氏＝民進、共産、自由、社民、沖縄社大推薦、立民支持＝は4日夜、「名護市民の選択の結果なので真摯に受け止めないといけない…」と言葉を詰まらせた。

稲嶺氏は4日午後10時半ごろ、事務所に到着した。駆

け付けていた翁長雄志沖縄県知事と笑顔で握手を交わし、集まっていた支持者らに手を振った。しかし、会場から挙がったのは歓声ではなく、悲鳴だった。

「ん!？」

げげんな表情で稲嶺氏が振り返ると、テレビモニターは対立候補の渡具知武豊氏の「当確」情報を伝えていた。茫然自失。そのままパイプ椅子に座り込むと、渡具知陣営の万歳三唱を突きつけられた。稲嶺氏はほとんど微動だにできなかったが、一度だけ目頭を押さえるしぐさを見せた。2期8年にわたる稲嶺市政に終止符が打たれた瞬間だった。

稲嶺氏は「残念ながら移設問題が争点となり得ず、はぐらかされてしまった」と声を振り絞る。「護岸工事は進んでいる状況だが、埋め立て面積はまだ1%に満たない。まだとめることができる。あきらめる必要は絶対はない」と強調すると、支持者からは拍手が巻き起こった。だが稲嶺氏に移設工事を止める市長権限はもうない。

「子ども達の未来に基地はいらない」

そう記された旗が、冷たい夜風にむなしくたなびいていた。今後の政治活動についての質問には答えず、選挙スタッフに抱えられながらの退場となった。

産経新聞 2018.2.4 23:21 更新

【名護市長選】米政府は辺野古移設を加速 沖縄県知事選も注視

4日の沖縄県名護市長選で安倍政権が支援した新人渡具知武豊氏が初当選し、米政府は日米合意に沿って米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設計画を加速させる方針だ。県民世論の動向には引き続き強い関心を寄せており、知事選も注視している。

日米合意は普天間返還の時期を「2022年度またはその後」と明記。海兵隊の配備計画をまとめた最新の「海兵隊航空計画」によると、運用に必要な輸送機オスプレイなどの格納庫整備は25年9月までずれ込むことになっている。

米軍側は、建設の遅れは北朝鮮や中国への対処能力に悪影響を与える可能性があるとして、避けたい考え。米政府当局者は「米軍による事件・事故に対する地元の懸念は理解している。良き隣人であるように努める」と語り、知事選に向けて反基地感情が高まらないよう注意を払う必要があるとの認識を示した。(共同)

産経新聞 2018.2.5 00:51 更新

【名護市長選】「秋の知事選も一気に行くよ」 初当選の渡具知武豊氏の事務所、歓喜の渦



当選し支援者らと握手する渡具知武豊氏(右)＝4日午後、沖縄県名護市(鳥越瑞絵撮影)

まさに“革命”が起きたかのような歓喜の渦に包まれた。

4日午後10時半ごろ、沖縄県名護市長選で新人の渡具知武豊(とぐち・たけとよ)氏(56)の「当確」がテレビで速報されると、市役所前の選挙事務所でかたずをのんで開票の行方を見守っていた支持者たち約300人は快哉を叫んだ。

「やったー」「よかった、よかった」…。だれそれ構わず握手し、抱き合った。

「この8年は長い、長いトンネルでした。立春を迎えたきょう、名護に本当に春が来ました」。30代の主婦は、涙を浮かべながら相好を崩した。

渡具知氏が「みなさん、本当にありがとう」と深々と頭をたれると、拍手が鳴り止まなかった。4年前の前回市長選に出馬し、現職の稲嶺進氏(72)に敗れた末松文信選対本部長は「新しい市長のもとで名護を変え、沖縄を変えていこう」と声を張り上げた。

渡具知氏にとっては険しい道だった。自民党県連名護市支部は当時市議の渡具知氏擁立で動いたが、安倍晋三政権の沖縄問題の司令塔、菅義偉官房長官が「勝てる候補」への“差し替え”を命じ白紙となった。しかし結局、さしたる候補者が見当たらず渡具知氏に舞い戻った。

「やれば、できる!!」一。一時は“だめ出し”した菅氏は昨年11月、首相官邸を訪れた渡具知氏にそうハッパをかけた。菅氏の言葉は、渡具知氏が名刺やチラシに掲げるキャッチフレーズとなった。昨秋にはダブルスコアとされた稲嶺氏との差も日に日に縮め、ついに市長の座を射止めた。

前回市長選で自主投票とした公明党から推薦を受けた。政府・自民党は昨年12月から、菅氏や二階俊博幹事長ら重鎮が続々と名護市入りし、組織・団体の票固めに動いた。

選挙中には全国的な知名度がある小泉進次郎筆頭副幹事長を一地方選挙で2度投入するという異例の態勢で支援した。

米軍普天間飛行場(宜野湾(ぎのわん)市)の辺野古移設問題の争点化は避け、市民生活の向上や地元経済の振興に力点を置いた。

「今回が市政奪還の最大のチャンス。これで負けたら名護も沖縄も変わらない」。そう思い抱く多くの市民の期待に渡具知氏は応えた。

自民党県連幹部は、渡具知氏の勝利に沸く支援者たちに目を細めながら力を込めた。

「天王山の秋の知事選も一気に行くよ」

産経新聞 2018.2.4 23:38 更新

【名護市長選】稲嶺進氏が敗戦の弁「市民の選択。真摯に受け止める」 翁長雄志知事は「忸怩たる思いだ」



沖縄県名護市長選で落

選が決まり、目頭を押さえる稲嶺進氏（中央）。左は翁長雄志沖縄県知事＝4日夜

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった名護市長選で、新人候補に敗れた無所属現職の稲嶺進氏＝民進、共産、自由、社民、沖縄社大推薦、立民支持＝は4日夜、「市民の選択の結果なので真摯に受け止めないといけない」と敗戦の弁を述べた。敗因については「残念ながら辺野古移設問題が争点となり得ず、はぐらかされてしまった」と振り返った。市内の後援会事務所で記者団に語った。

稲嶺氏を支持した翁長雄志沖縄県知事も「自民党中央の組織戦が大きな威力を発揮した。じくじたる思いだが、結果なのでしっかり受け止めたい」と語った。秋に控える県知事選への影響については「一日一日だ。その時々判断になると述べるにとどめた。

産経新聞 2018.2.4 23:28 更新

【名護市長選】「普天間移設も計画通り進める」自民党・塩谷立選対委員長「沖縄県知事選に大きな影響」

自民党の塩谷立選対委員長は4日夜、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった名護市長選で、移設推進の安倍晋三政権が全面支援した無所属新人の渡具知武豊氏＝自民、公明、維新推薦＝が初当選したことを受け、12月に任期満了を迎える沖縄県知事選に影響があるとの認識を示した。「名護市長選は知事選に向けた大きなポイントとなっており、大きな影響がある」と語った。党本部で記者団の質問に答えた。

同時に「渡具知候補は基地の対応だけではなく、地元の経済、教育・福祉を強く訴えた。基地の対応と経済、教育・福祉を両立させようとしたことが市民に理解されたのと思う」と勝因を分析した。今後の基地問題への対応については「今までの計画通り進めていくことになる」と述べた。政府は昨年4月に着手した辺野古沿岸部の護岸埋め立て工事を加速させる方針だ。

産経新聞 2018.2.4 23:52 更新

【名護市長選】公明党・斉藤鉄夫選対委員長「8年間停滞した市政を転換したいとの市民の思い」

公明党の斉藤鉄夫選対委員長は4日夜、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった

名護市長選で、推薦した無所属新人の渡具知武豊氏＝自民、公明、維新推薦＝が初当選したことを受け「8年間で停滞した市政を転換したいという市民の思いと、渡具知氏の『活気あふれる名護』という訴えが重なった結果だ」とのコメントを発表した。

米軍ヘリコプターによる相次ぐ事故や松本文明前副大臣の失言など選挙戦への影響が懸念されたが、「迅速な米軍への申し入れや、副大臣更迭などの措置で負の影響を最小限に食い止められた」とした。沖縄県知事選などへの影響については「各種の地方選挙に大きな弾みとなるだろう」と評価した。

2018.2.4 23:13 更新

【名護市長選】維新・馬場幹事長「多数の民意を得たことは喜ばしい。わが党は沖縄の基地負担軽減を進める」

日本維新の会の馬場伸幸幹事長は4日夜、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった名護市長選で、無所属新人の渡具知武豊氏＝自民、公明、維新推薦＝が初当選したことを受け、「（推薦した渡具知氏が）多数の民意を得たことは喜ばしい。地域の活性化と振興に向けて頑張ってもらいたい」との談話を出した。

また、馬場氏は沖縄の基地問題に関し「日本の安全保障をいかに守り、高めるかという国政マターの課題だ。わが党は長年過剰な負担を強いられている沖縄の方々の基地負担軽減に向けた取り組みを進めていきたい」と強調した。

産経新聞 2018.2.5 00:11 更新

【名護市長選】立憲民主・福山哲郎幹事長「移設方針に理解は得られていない」

立憲民主党の福山哲郎幹事長は4日夜、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった名護市長選で、同党が支持した現職の稲嶺進氏（72）＝民進、共産、自由、社民、沖縄社大推薦、立民支持＝が敗れたことを受け、「結果に結び付けられなかったことは極めて残念だ」との談話を発表した。

その上で、安倍晋三政権が進める移設計画に関して「選挙結果を踏まえれば、政府・与党の移設方針に対して名護市民、沖縄県民の多くが反対の意思を表明し、その方針が決して理解が得られていないことも明白だ。政府・与党は沖縄の現実をしっかりと直視すべきだ」と訴えた。引き続き安倍政権と対峙していく姿勢も示した。

産経新聞 2018.2.5 00:23 更新

【名護市長選】自由党・小沢一郎代表「沖縄の民意を踏みにじる安倍晋三政権を一日も早く終わらせる」

自由党の小沢一郎代表は4日夜、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった名護市長選で、自由党などが推薦した現職の稲嶺進氏（72）が、

元市議で新人の渡具知武豊氏（56）＝自民、公明、維新推薦＝に敗れたことを受け「重く受け止めている。選挙結果に繋がらなかったことは誠に残念だ」との談話を発表した。



1月27日、演説会で稲嶺進氏（右）の支援を呼びかける自由党の小沢一郎党首（左）、共産党の志位和夫委員長（中央）ら＝名護市（高木桂一撮影）

一方で「基地問題などへの取り組みなどを見ても、安倍晋三政権が沖縄に寄り添うどころか、沖縄の皆さんの民意を踏みにじっていることは明らかだ」と指摘し、「沖縄のみならず地域のことが全くわかっていない安倍政権を一日も早く終わらせるために、引き続き全力で闘う」と訴えた。

産経新聞 2018.2.5 00:23 更新

【名護市長選】社民党・又市幹事長「残念ながら苦杯…安倍政権は沖縄への冷淡な対応を刷新せよ」

社民党の又市征治幹事長は4日夜、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった名護市長選で、推薦した無所属現職の稲嶺進氏＝民進、共産、自由、社民、沖縄社大推薦、立民支持＝が敗れたことを受け、「残念ながら稲嶺氏は及ばず、苦杯を飲んだ。稲嶺氏を支持していただいた名護市民の皆さま、支援団体に心から感謝と敬意を表する」とのコメントを発表した。

その上で、安倍晋三政権に対し「沖縄に対する冷淡かつ不当な対応を刷新し、沖縄県民が平和に生きる権利の具体化の実現に努めるべきだ」などとして、普天間飛行場の移設計画の見直しを求めた。

沖縄 名護市長選 新人の渡具知氏 当選

NHK2月5日 5時00分

沖縄県名護市の市長選挙は4日に投票が行われ、自民・公明両党などが推薦し、地域経済の活性化を前面に掲げた新人の渡具知武豊氏が、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設阻止を訴えた現職を破って、初めての当選を果たしました。

名護市長選挙の結果です。

▽渡具知武豊（無所属・新）当選、2万389票

▽稲嶺進（無所属・現）1万6931票

自民党、公明党、日本維新の会が推薦する新人で元市議会議員の渡具知氏が、民進党、共産党、自由党、社民党、地

域政党の沖縄社会大衆党が推薦し、立憲民主党が支持する現職の稲嶺氏を破って、初めての当選を果たしました。渡具知氏は名護市出身の56歳。20年近く市議会議員を務め、今回初めて市長選挙に立候補しました。

アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に向け、護岸工事が進む中で行われた今回の選挙戦で、渡具知氏は、移設問題の賛否には直接言及せず、前回自主投票だった公明党の推薦も受けて、地域経済の活性化を前面に掲げました。

その結果、自民党や公明党の支持層を固めたほか、いわゆる無党派層からも一定の支持を集め、初めての当選を果たしました。

一方、辺野古への移設阻止を訴えた現職の稲嶺氏は、沖縄県の翁長知事の支援を受けて3期目を目指しましたが、及びませんでした。

渡具知氏は「今の市政に対する閉塞（へいそく）感と、これからの名護市の経済振興や子育て世代に対する支援などを訴えたことで支持されたと思う」と述べました。また、名護市辺野古への移設計画については「これまで何度も申し上げているように、国と県とが争っている裁判の行方を注視していく」と述べました。

自民党の塩谷選挙対策委員長は党本部で記者団に対し、「基地問題への対応と、地元の経済、教育、福祉を両立させようという候補の訴えが受け入れられた。基地の移設は今までの計画どおり進められていくと思う」と述べました。

そのうえで、塩谷氏は、ことし行われる沖縄県知事選挙について「今回の名護市長選挙は知事選挙に向けての大きなポイントになっていた訳だから、大きな影響がある。今回の結果を受けて、今後の態勢を整えていく」と述べました。公明党の斉藤選挙対策委員長は「この8年間で停滞した市政を転換したいという市民の思いと、渡具知氏の『活気あふれる名護』という訴えが重なった結果だと思う。渡具知氏がこれまでの『分断の名護』から『協力しあう名護』に変えてくれるとの市民の期待が、最大の要因だ。ことしは沖縄の選挙イヤーで、各種の地方選挙に大きな弾みとなるだろう。普天間基地の名護市辺野古への移設は、地元と県民の理解を得て進めるべきだ」などとするコメントを発表しました。

立憲民主党の福山幹事長は「極めて残念だが、『辺野古新基地移設方針』に対し、名護市民と沖縄県民の多くが反対の意思を表明し、理解が得られていないことも明白であり、政府・与党は沖縄の現実をしっかりと直視するべきだ。立憲民主党は、政府・与党が引き続き沖縄県民の意思に寄り添うことなく強硬に事態を推し進めていくことに対しては、厳しく対峙していく」というコメントを出しました。

民進党の篠原選挙対策委員長は「稲嶺氏を推薦した政党として、力が及ばなかったことをおわびする。稲嶺氏は地域と暮らしを守る政治を訴えてきたが、残念ながら力が及ば

なかった。民進党は、沖縄県民1人1人の思いを胸に刻み、結果を厳粛に受け止め、安倍自民党政権と厳しく対峙していく」というコメントを出しました。

日本維新の会の馬場幹事長は「多数の民意を得たことは喜ばしい。市民の皆さんから受けた支持をしっかりと政策につなげていくためにも、地域の活性化と振興に向けて、新市長には頑張ってもらいたい。わが党は長年、過剰な負担を強いられている沖縄の方々の基地負担軽減に向けた取り組みを進めていきたい」というコメントを出しました。

自由党の小沢代表は「稲嶺氏は、辺野古移設問題について、常に市民の声を第一に、一貫して反対の立場を貫き、将来を見据えた、責任ある対応をとってきたが、選挙結果につながらなかったことは誠に残念だ。安倍政権が、沖縄に寄り添うどころか、沖縄の民意を踏みにじっていることは明らかで、安倍政権を1日も早く終わらせるために引き続き全力で闘っていく」というコメントを出しました。

社民党の又市幹事長は「相手陣営の『辺野古移設問題の争点外し戦術』に加え、安倍政権の大攻勢の前に、残念ながら稲嶺氏は及ばず、苦杯を飲んだ。社民党は、沖縄県の負担削減に向けて『辺野古新基地建設阻止』などを強く求めるとともに、翁長知事の再選と統一地方選挙勝利を目指し、全力を尽くしていく」というコメントを出しました。

名護市長選 新人の渡具知氏当選

NHK那覇 02月05日 01時21分

政府が進めるアメリカ軍普天間基地の移設計画をめぐる対応などが争点となった名護市の市長選挙は、自民党や公明党などが推薦した新人の渡具知武豊氏が、移設の阻止を訴えた現職を破り、初めての当選を果たしました。

4日に投票が行われた名護市長選挙の開票結果です。

渡具知武豊、無所属・新。

当選。2万389票。

稲嶺進、無所属・現。

1万6931票。

自民党、公明党、日本維新の会が推薦した新人で元市議会議員の渡具知氏が現職の稲嶺氏を破り、初めての当選を果たしました。

渡具知氏は名護市出身の56歳。

平成10年から20年近くにわたって市議会議員を務めました。

当選した渡具知氏は「2期8年の今の市政に対する閉塞感と、これからの名護市の経済振興や子育て世代に対する支援などを訴えたことで一般的に支持されたと思う」と喜びを語りました。

また、争点となったアメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画については、「これまで何度も申し上げているように、国と県とが争っている裁判の行方を注視していく」と述べました。

渡具知氏は、政府と協議する必要があるという考えも示しているため、国にとっては、これまでよりも工事を進めやすい環境になるものとみられます。

一方、3期目を目指したものの渡具知氏に及ばなかった稲嶺氏は「市民の選択の結果なので真摯に受け止めなければいけない」と述べました。

その上で、普天間基地の移設計画について、「選挙期間中は教育も福祉も平和と安全安心があつてのことだと強く訴えたが争点をはぐらかされ、結局は目の前の経済優先の訴えが先行し、とても残念だ」と述べました。

今回の選挙は、秋に控えている県知事選挙の前哨戦とも位置づけられていただけに、移設の阻止を県政の最重要課題として稲嶺氏を全面的に支持した翁長知事にとって大きな痛手といえ、態勢の立て直しを迫られることになります。

政府 普天間基地移設計画推進 安全確保に万全期す

NHK2月5日 6時05分

沖縄県名護市の市長選挙で、自民・公明両党などが推薦した新人が、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する現職を破って当選したことについて、政府与党は、秋に予定されている沖縄県知事選挙に向け弾みになるとしています。一方、政府は、引き続き普天間基地の移設計画の実現に取り組むとともに、アメリカ軍機の安全確保に万全を期すようアメリカ軍に求めることにしています。

4日に投票が行われた沖縄県名護市の市長選挙では、自民・公明両党と日本維新の会が推薦した新人の渡具知武豊氏が、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設計画に反対する現職の稲嶺進氏を破り、初めて当選しました。政府与党は、敗北は許されないとして、今回の市長選挙を秋に予定されている沖縄県知事選挙の前哨戦と位置づけ、幹部が相次いで応援に入るなど国政選挙並みの態勢で選挙戦に臨みました。

それだけに、政府与党内からは「知事選挙に向けて弾みになる」といった声が出ています。

また、名護市民の間で、移設問題で国との対立が続くことへの懸念も強まり始めているのではないかなどという見方も出ています。

一方、政府は、普天間基地の固定化を避け危険性を除去するには、名護市への移設が唯一の解決策だという立場を堅持していて、引き続き沖縄の基地負担の軽減に努めながら移設計画の実現に取り組むことにしています。

また、沖縄県でアメリカ軍機のトラブルなどが相次いだことを踏まえ、アメリカ軍に対し、安全確保に万全を期すよう求めるとともに、ヘリコプターが学校の上空などを飛ばないように監視活動も続けることにしています。

政府高官「経済振興を望んでいる」

政府高官はNHKの取材に対し、「今回の選挙の勝因は、自民党と公明党がしっかりとまとまって候補者を支援できたの

が大きかった。われわれが支援した候補者が勝ったということは、名護市民が経済の振興を望んでいるということだ」と述べました。

防衛省幹部「移設計画に理解」

防衛省幹部はNHKの取材に対し、「今回の結果は、移設先である名護市の市民が辺野古への移設計画に理解を示したということであり、今後の移設工事の推進にとっても大きな意味がある。名護市の協力を得ながら、沖縄の基地負担の軽減に取り組めるよう、国としても丁寧に地元と向き合っていきたい」と述べました。

米国防務省 論評避ける

名護市長選挙の結果について、アメリカ国防務省の報道担当者は4日、NHKの取材に対し、「アメリカはいかなる立場も取らず、コメントもしない」として論評を避けました。ただ、国防務省の高官は先週、記者団に対し、「誰が当選しても連携して取り組んでいく。日本との間には強固な同盟関係がある」と述べ、アメリカ軍普天間基地の移設計画については日本側と連携して取り組む立場を示していました。アメリカ政府としては、日米両政府が合意した普天間基地の移設が進むことを期待していて、秋に予定されている沖縄県知事選挙の行方も含め状況を注視していくものと見られます。

沖縄・名護市長選 自公維推薦の新人・渡具知武豊氏が当選

J NN02/04 22:56

沖縄のアメリカ軍普天間基地の辺野古への移設などが争点となった名護市長選挙は4日、投開票が行われ、政府・与党の支援を受けた新人が初当選しました。

名護市長選挙は4日に投開票が行われ、新人で自民、公明、維新が推薦する渡具知武豊さん（56）が現職の稲嶺進さん（72）に3400票あまりの差をつけ、初当選を果たしました。

選挙では普天間基地の辺野古移設問題が争点のひとつとなり、移設を推進する「政府・与党」が渡具知さんを支援する一方、移設阻止を目指す翁長知事ら「オール沖縄」勢力が現職の稲嶺さんを支援していました。

選挙戦で渡具知さんは辺野古移設の是非に言及せず、子育て支援策や経済政策を前面に打ち出して戦いました。

「子育て世代に対する支援が全般的に支持されたと思う。（辺野古移設については）現在、県と国が係争中なので裁判の行方を注視する」（初当選した渡具知武豊氏）

辺野古での移設工事を進める政府・与党は地元の市長選の勝利で工事の推進へ弾みをつけたことになり、オール沖縄勢力は秋の県知事選挙に向けて態勢の見直しを迫られます。

【結果】

渡具知武豊氏（無・新） 2万389票

稲嶺進氏（無・現） 1万6931票

新人の渡具知武豊氏が初当選 沖縄・名護市長選挙

ANN2018/02/04 22:48

アメリカ軍普天間基地の移設問題を争点とした沖縄県名護市長選挙は自民、公明、維新の推す新人の渡具知武豊氏が初当選を飾りました。現職の稲嶺進氏は及びませんでした。

今回の選挙結果は、普天間基地の辺野古への移設を巡って去年4月に護岸工事が開始されてから初めて移設に対する市民の判断となります。移設容認派の渡具知氏が当選したことで、政府は引き続き工事を進めていくとみられます。一方、社民、共産、民進、自由、立憲民主などが推し、移設反対を掲げて戦った現職の稲嶺氏が敗れたことで、基地の移設に反対する勢力は今年11月に予定される沖縄県知事選挙に向けて、態勢の立て直しを迫られることとなります。

名護市長選で新人当確 前沖縄支局長が解説

NNN2018年2月4日 22:53

アメリカ軍普天間基地の移設問題を争点とした沖縄県名護市の市長選挙で、移設を進める政権与党が支援した新人の渡具知武豊氏が、名護市辺野古への移設反対を訴えた現職の稲嶺進氏を破り、初当選を確実にした。日本テレビ・田頭祥前沖縄支局長が解説する。

全文を読む

アメリカ軍普天間基地の移設問題を争点とした沖縄県名護市の市長選挙で、移設を進める政権与党が支援した新人の渡具知武豊氏が、名護市辺野古への移設反対を訴えた現職の稲嶺進氏を破り、初当選を確実にした。

渡具知氏勝利 基地移設に勢いづく政府与党

NNN2018年2月5日 01:17

アメリカ軍普天間基地の移設問題を争点とした沖縄県・名護市の市長選挙で、移設を進める政権与党が支援した新人の渡具知武豊氏が、現職を破り、初当選を果たした。一方、今回の結果を受け、基地移設を進める政府与党側は、安どすると共に勢いづいている。

全文を読む

アメリカ軍普天間基地の移設問題を争点とした沖縄県・名護市の市長選挙で、移設を進める政権与党が支援した新人の渡具知武豊氏が、現職を破り、初当選を果たした。一方、今回の結果を受け、基地移設を進める政府与党側は、安どすると共に勢いづいている。

翁長知事と共に移設反対派の象徴とも言える現職市長を破ったことで、政権幹部は、「反対派は徹底的に崩れた。基地移設を進めやすくなった」と喜びをあらわにした。

自民党・塩谷選対委員長「基地の対応と経済、教育福祉、そういったものを両立させようということが、私は市民に理解されたんだと思います。(Q:今後の辺野古移設はどう進める?)今までの計画通り進めていくことになると思う」アメリカ軍機のトラブルに松本前副大臣の失言も重なり、逆風も予想された中での勝利に、自民党幹部は「市民は基地の話はもう飽き飽きしていたということだ」と分析している。

また、政府与党の幹部が次々応援に入るなど総力戦を展開しており、別の幹部は、「公明党との協力の成果であり、企業・団体などの組織選挙がいきま」と勝因を語った。

一方、共産党幹部が、「渡具知候補は徹底した争点隠しをした。ひきょうだ」と述べるなど、野党側は悔しさを隠しきれない。

ただ、立憲民主党幹部は、「ヘリのトラブルなどがあつた中で勝たれたというのは大きい」と落胆していて、戦略の練り直しが迫られる。

この勝利で政府与党側が勢いづくのは、次は移設反対派のトップ・翁長知事にねらいを定めているからだ。政権幹部は、「これで知事選挙も勝てる。翁長知事はもうダメだろう」と述べていて、秋の知事選挙でも勝利し、辺野古移設を推進できる環境を固めたい考え。

名護市長選 自・公など推薦 渡具知氏当選

FNN02/05 00:27

アメリカ軍・普天間基地の移設問題が最大の争点となった、沖縄・名護市の市長選挙は、自民・公明などが推薦した、新人の渡具知 武豊氏が現職を破り、初当選を果たした。名護市長選挙は開票の結果、自民・公明・維新が推薦した、渡具知 武豊氏が、2万0,389票を獲得し、翁長県知事が支援した、現職の稲嶺 進氏を破って初当選した。

渡具知氏は「名護の経済振興、子育て世代に対する支援が、全般的に支持されたと思っている」と述べた。

辺野古移設阻止を訴える翁長知事にとって、地元での敗北は大きな痛手で、今後、移設計画への影響が注目される。

自民・塩谷選対委員長は「基地の対応と経済、教育、福祉、そういったものを両立させようということが、わたしは市民に理解されたんだと思う」と述べた。

渡具知氏を推薦した、自民党の塩谷選対委員長は、市政を進めつつ、辺野古への基地移設について「計画通り進めていくことになる」と述べた。

政府も、民意を受けたとして、今後、辺野古移設工事を加速化するとみられる。(沖縄テレビ)

【速報】名護市長選、渡具知武豊氏が初当選 現職・稲嶺氏に3458票差

琉球新報 2018年2月4日 22:34



渡具知武豊氏

米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設問題が最大の争点となった名護市長選は4日に投開票され、移設を推進する政府が推す無所属新人の渡具知武豊氏(56)＝自民、公明、維新推薦＝が2万389票を獲得し、初当選した。移設阻止を訴えた無所属現職の稲嶺進氏(72)＝社民、共産、社大、自由、民進推薦、立民支持＝は1万6931票で、3458票差だった。

市長が移設反対派から変わるのは8年ぶり。日米両政府が進める辺野古移設が加速していくことは確実で、移設阻止を訴える翁長雄志知事ら「オール沖縄」勢力には、秋に予定される知事選に向け大きな打撃となった。【琉球新報電子版】

国、辺野古推進と歓迎 名護市長選・渡具知氏初当選

琉球新報 2018年2月5日 06:00

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設が最大争点となった4日投開票の名護市長選で、移設を推進する政府与党に支援を受けた渡具知武豊氏(56)が移設阻止を掲げた稲嶺進氏(72)を下し、初当選した。政府は2017年4月に護岸工事に着手して以降、工事を推し進めている。渡具知氏が当選したことで政府は工事をさらに加速させそうだ。

辺野古新基地建設を推進する政府の支援を受けた渡具知武豊氏が当選したことで、国は「名護市民は新基地を容認した」とけん伝し、工事を一層加速させてくると思われる。これまで、地元の民意を根拠に辺野古新基地建設阻止の方針を掲げていた翁長県政は厳しい状況に追い込まれる。衆院選など各種全県選挙で辺野古新基地建設反対の民意が示されていることから、知事は引き続き辺野古新基地ノーを堅持する見通しだが、その実現への戦略は見直しを迫られそうだ。県知事選への翁長氏自身の動向も注目される。

渡具知氏は選挙期間中、辺野古の新基地建設の是非の明言は避け「(県と国の)裁判の行方を注視する」と述べるにとどめてきた。しかし、基地受け入れが条件とされる再編交付金については「特段断る理由はない」などとし、受け取る意向を示している。

再編交付金の受け取りと新基地建設反対が両立し得ないことを考えると、渡具知氏が近く辺野古新基地「容認」の姿勢を示す可能性が高い。名護市長は美謝川の水路切り替えなど工事を進める上での許認可を有しており、市長判断

が基地建設の進展に大きな影響を与える。

県は今後、これまでの全県レベルでの選挙で新基地建設ノ一を掲げる候補が当選しているという事実や護岸工事着手に際し、度重なる県の行政指導を無視し工事を進める国の対応などを根拠に新基地建設反対の理論武装をしていくとみられる。埋め立て承認の撤回やそれに関連する県民投票、秋の知事選など重大局面が続く。(仲井間郁江)

名護市長選「市民の選択の結果」 稲嶺さん、声絞り出す 琉球新報 2018年2月5日 06:30

「残念ながら、辺野古が争点とならなかつた」。2期8年の実績と辺野古の新基地阻止を訴えた稲嶺進さんは、約3500票差で3選に届かなかった。午後10時28分、渡具知武豊さんの当選確実がテレビで流れると、市大中の選挙事務所は沈黙に包まれ、カメラのシャッター音だけが響いた。稲嶺さんは報道陣のインタビューに「市民の選択の結果だ。真摯(しんし)に受け止めないといけない」と言葉少なに話した。

米軍キャンプ・シュワブ沖での護岸工事が進む中、今回の市長選は過去2回と比べものにならないほど厳しかった。新基地建設の是非に触れず、経済振興を前面に押し出す相手候補。選挙期間中、稲嶺さんは「基地で栄えても、裏には人の犠牲がある」「市民の良識を信じている」と強調し、建設阻止を懸命に訴えた。

陣営には毎日、多くの人が訪れ、メッセージや手紙を寄せた。米軍属女性暴行殺人事件の被害者の父親からも、応援の差し入れが届けられた。「子どもたちに安心と安全を届ける」と勝利を信じて闘った。

気温11度まで冷え込む中、稲嶺さんは翁長雄志知事や地元選出の国会議員、多くの支持者らと事務所の外で開票を見守った。落選が伝えられると、鼻を赤くし、涙を拭うしぐさを見せた。

インタビューで「工事はまだ予定の1%にも満たない。止めることはできる。諦める必要はない」と強調すると、支持者は「そうだ」と声を上げ、拍手と指笛で応えた。

【開票率100%】名護市長選：渡具知氏が2万389票で当選 稲嶺氏1万6931票で3400票差つく

沖縄タイムス 2018年2月4日 23:00

任期満了に伴う名護市長選では、新人の渡具知武豊氏が現職を破り初当選した。午後10時45分の選挙管理委員会の最終発表では、渡具知氏が2万389票、稲嶺進氏は1万6931票で約3400票の差をつけた。

最終投票率は76.92%で、前回2014年を0.21ポイント上回った。

名護市長選：辺野古反対の現職敗れる 渡具知氏が初当選、稲嶺氏に3458票差

沖縄タイムス 2018年2月5日 01:01

【名護市長選取材班】任期満了に伴う名護市長選挙は4日、投開票され、辺野古新基地建設を推進する政府与党が推す無所属新人の渡具知武豊氏(56)＝自民、公明、維新推薦＝が2万389票を獲得し、建設に反対する無所属現職の稲嶺進氏(72)＝社民、共産、社大、自由、民進推薦、立民支持＝に3458票差をつけ初当選した。経済振興や生活向上の訴えが浸透した。渡具知氏は新基地建設の是非を明言していないが、市長権限での建設阻止を掲げた稲嶺氏の落選で、建設は進展する見通しとなった。



当選確実となり、支持者とバンザイ三唱する渡具知武豊氏(中央)＝4日午後10時38分、名護市大南の選挙事務所(下地広也撮影)

1996年に米軍普天間飛行場の名護市沖への移設案が浮上。政府が2014年7月に新基地建設に着手してから初の選挙で、現職の稲嶺氏が、新基地建設問題を訴えたのに対し、渡具知氏は経済振興を前面に出して選挙戦を戦った。

辺野古推進の政府与党と、反対を掲げる翁長雄志知事ら「オール沖縄」勢力との事実上の代理戦となった。稲嶺氏の落選によって、辺野古阻止を県政の最大の柱に掲げる翁長知事の求心力の低下は避けられず、11月にも予定される知事選への影響は必至だ。

渡具知氏は辺野古問題について、「県と国の裁判の行方を注視する」として是非を明言せず、工事が進む現状を踏まえ「現市政は一つの問題にこだわりすぎている」と批判。2期8年の現市政が「経済の停滞を招いた」として支持を広げた。政府与党の幹部が何度も名護入りしてテコ入れを図ったほか、前は自主投票だった公明と維新の推薦も追い風となった。

稲嶺氏は「オール沖縄」を構成する政党や企業などの全面的な支援を受けたが、辺野古沖の護岸工事が進む現状や経済停滞などといった渡具知氏の市政批判を覆せなかった。

当日有権者数は4万8781人。投票率は前回から0.21ポイント上回る76.92%だった。

渡具知氏、辺野古の裁判「行方を注視」

渡具知武豊氏は当確が報じられた後、支持者に対し「これまで本当にみなさんに支えていただいた。これからが大変だと思う」と感謝した。また渡具知氏は「名護を変えてくれ、もっともっと明るい街、発展させてくれとの強い思いがあった。子育て世代に対する支援など全般的に支持されたと思う」と述べた。

辺野古新基地建設については「何度も申し上げた通り、県と国が係争中なのでその裁判の行方を注視する。行政の長は法律に従う以上のことはできない」とした。県が勝った場合の対応については「仮定の話なので話すときりががない。その時点で判断する」と述べた。支援を受けた政府与党に対しては「誠実に名護の現状を話し、必要な予算はお願する」とした。

知事選への影響には「いろんな考えがある。何らかの影響を与えると思う」とコメントした。

渡具知武豊氏（とぐち・たけとよ） 1961年8月12日生まれ。名護市許田出身。第一経済大（現・日本経済大）卒。保険代理店経営を経て98年に名護市議に初当選。連続5期。自民系会派「礎之会」会長を務めた。座右の銘は「為せば成る」。妻と1男2女。

「国家にはひれ伏せということか」 翁長県政、主張の柱を失い大打撃 辺野古反対の戦略見直しへ

沖縄タイムス 2018年2月5日 00:56

4日の沖縄県名護市長選で名護市辺野古の新基地建設を推進する政府与党が全面支援した渡具知武豊氏が勝利した。翁長雄志知事は県政の最重要課題とする新基地建設阻止の主張の柱を失った形で、県政運営の先行きは極めて不透明になった。政府は、名護市民の「信任」を得たとして基地建設を推し進める構えだ。（政経部・大野亨恭、東京報道部・大城大輔、北部報道部・城間陽介）

県政運営は不透明に

「辺野古反対の大義を失った。戦略見直しは必至だ」。県幹部は、声を振り絞った。

翁長氏は新基地建設阻止を公約の柱に据え、「民意」を最大の根拠に政府と対峙（たいじ）してきた。4年前の市長選で「オール沖縄」勢力結集の原動力となった稲嶺氏の勝利は、公約実現、そして今秋の知事選を占う上で「絶対に落とせない戦い」（県幹部）で、知事自ら連日、市内で支持を訴えた。しかし、力及ばなかった。

知事は投票前日の3日、記者団に選挙結果にかかわらず辺野古反対の姿勢は変えないと強調した。ただ、地元民意の「変容」で辺野古を巡る政策にも大きな転換を強いられるのは必至だ。

「知事の求心力が低下しているのは明らかだ」。政府関係者は確信を得たように語った。

沖縄防衛局は、辺野古で今夏の土砂投入を目指す。「市長

が代わったとはいえ、最終的には知事権限がある。一気に加速とはならないが、知事は難しい判断を迫られるだろう」と語る。

1996年4月	橋本龍太郎首相とモンテール駐日米大使が普天間返還に合意
97年11月	久間敬生防衛庁長官が海上ヘリ基地案を名護市、県に提示
12月	・名護市民投票で受け入れ反対が過半数を占める ・比嘉鉄也名護市長が海上ヘリ基地案を受け入れ、辞任
98年2月	名護市長選で岸本建男氏が初当選
99年12月	岸本市長が七つの条件付きで受け入れ表明
2000年7月	沖縄サミット開催
02年2月	岸本氏が再選
7月	政府と県、名護市が辺野古神移設に基本合意
04年8月	宜野湾市の沖国大に米軍ヘリが墜落
06年1月	名護市長選で島袋吉和氏が初当選
4月	島袋市長が2本の滑走路の「V字案」で政府と基本合意
5月	日米両政府が在日米軍再編の最終報告合意
09年12月	鳩山由紀夫首相が辺野古以外の案本格検討を表明
10年1月	名護市長選で辺野古移設反対を掲げた稲嶺進氏が初当選
5月	鳩山首相が来県し、県内移設表明
11月	知事選で仲井真弘多氏が「県外移設」を公約に再選
12年12月	沖縄防衛局が環境影響評価書を未明の県庁へ搬入
13年1月	普天間の県内移設断念などを求める「建白書」を安倍晋三首相に提出
12月	仲井真知事が埋め立て申請を承認
14年1月	名護市長選で稲嶺氏が「辺野古移設推進」を掲げた新人候補に4千票以上の差で再選
7月	沖縄防衛局が辺野古新基地建設に着手
11月	知事選で辺野古移設反対の稲嶺雄志知事が初当選
15年10月	翁長知事が埋め立て承認を取り消し
16年3月	国と県の争う三つの裁判で和解成立。工事は中断
12月	最高裁が県の上告を棄却。県取訴が確定
17年4月	防衛局が護岸工事に着手
7月	県が工事差し止め訴訟を提起
18年2月	名護市長選

普天間移設問題を巡る主な動き

昨年は知事が新基地用の石材搬出を目的とした国頭村奥港の使用許可を出し、市民の反発が噴出。今回の結果は、さらに亀裂を広げるきっかけになると見込む。別の関係者は「撤回もできないだろう。知事が知事選で辺野古に反対する大義はない」と言い切った。

「あきらめムード」

一方、選挙戦では一貫して辺野古問題への賛否を明確にしなかった渡具知氏。今後の対応は不透明だが、政策発表で掲げた海兵隊の県外・国外移転は普天間の辺野古移設を含む米軍再編に沿うものとの認識だ。

選対関係者は「辺野古移設は沖縄の基地負担軽減につながるものだ」と辺野古「容認」の態度をにじませる。渡具知氏は、美謝川の切り替え協議など市長権限の行使に関し「権限の実効性を精査してみないと分からない」と慎重な姿勢だ。

選挙戦では、自民党幹部らが繰り返し来県し、「政府与党

とのパイプ」を見せつけた。国は再編交付金の交付もちらつかせ、渡具知氏を支援した。

それに引き換え、国は沖縄関係予算を大幅に削減する一方、辺野古の工事を着々と進め市民の「あきらめムード」を醸成してきた。

今後、一括交付金の厳格査定や県議会での執行部への追及など、県には試練が待ち構える。知事側近は、知事任期までの10カ月間は「まさに四面楚歌（しめんそか）だ」とうなだれる。

そして、政府与党による県への「兵糧攻め」と、対照的に圧倒的な物量の投入で渡具知氏勝利をもぎ取っていった結果に天を仰いだ。「国家にはひれ伏せということか」

辺野古移設の行方は？ 政府「地元の民意」で工事加速の構え

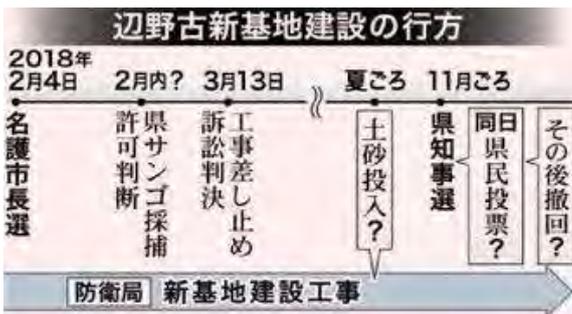
沖縄タイムス 2018年2月5日 01:00

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を推進する政府与党が推した渡具知武豊氏が勝利したことで、政府は「地元の民意」を錦の御旗に工事を加速させる構えだ。一方、建設阻止を掲げた稲嶺進氏の敗北で、翁長雄志知事は反対の最も強い根拠であった「民意」の一角を失った形。工事阻止に向けた撤回などの知事権限にも影響が出そうだ。

沖縄防衛局は昨年4月に米軍キャンプ・シュワブ北側の「K9」護岸建設に着手し、現在までに辺野古崎南西側を中心に五つの護岸建設を進めている。護岸で囲み終わった区画から埋め立てを開始する計画で、今年夏ごろの土砂投入を目指し、作業を進めている。



辺野古で進む埋め立て護岸工事（2017年11月4日沖縄タイムスより）



辺野古新基地建設 今後の流れ

知事は埋め立て承認の撤回を明言し、支持者の間では県民投票を模索する動きもある。だが、県幹部は「地元が承認した以上、基地建設に反対する大義は見いだせない」と語る。

知事には工事の変更申請の可否判断という権限も残されているが、防衛局は少なくともこの先1年は変更申請を予定していない。護岸建設を着々と進めることで、市民の間に「工事は止まらない」というあきらめムードの醸成を狙った政府は、秋の知事選に向けさらに埋め立てを加速させるとみられる。

「理解を得られず残念」 翁長知事、「盟友」の敗北に硬い表情

沖縄タイムス 2018年2月5日 01:37

「稲嶺進さんの2期8年の実績が理解を得られず大変残念」。4日夜、翁長雄志知事は新基地反対の思いを重ねた「盟友」ともいえる稲嶺さんの敗北に落胆の色をにじませ、「忸怩（じくじ）たるものはあるが結果をしっかりと受け止める」と述べた。

午後10時25分、同市大中にある稲嶺さんの選挙事務所に入った翁長知事の表情は硬かった。ただ、その直後に入った稲嶺さんを握手で迎え、笑みを浮かべる場面もあった。

そんな和やかなムードもつかの間。数分後にテレビ局が相手候補の当確を速報すると、隣り合わせの二人は驚いた表情で眼前のテレビ画面に食い入った。ざわめく会場内で無言のまま、生中継される相手候補のバンザイを口元を硬くしながらじっと見つめた。

報道陣に促され、敗戦の弁を述べる稲嶺さんの話に、終始目をつぶって聞き入った翁長知事。自身にマイクを向けられると「オスプレイが飛び交う所で観光は成り立たない。それが争点外して理解されず残念」と悔やんだ。その上で「自民、中央の組織選挙が大きな威力を發揮した。市民のフリーな判断があったかどうか」と述べ、報道陣を振り払うように足早に車に乗り込んだ。

名護市長選「辺野古疲れ」が壁に 涙こらえる稲嶺さん「まだ止められる」

沖縄タイムス 2018年2月5日 06:06

辺野古新基地建設などを争点にした4日の沖縄県名護市長選挙は、「市民生活向上」を訴えた渡具知武豊さん（56）が現職を大きく離し、初当選を果たした。「新基地建設ノー」を掲げた稲嶺進さん（72）は、20年以上賛否を問われ続けて市民に広がる「辺野古疲れ」のムードが壁になり及ばなかった。



落選の報にうつむき、目頭を押さえる稲嶺進さん（前列中央）＝4日午後10時36分、名護市大中の選挙事務所（田嶋正雄撮影）

「残念ながら辺野古が争点となりえなかった」。現職の稲嶺進さんは落選に悔しさをにじませた。午後10時28分、大きな拍手に包まれて選挙事務所前の特設テントに姿を現した稲嶺さん。腰を下ろそうとした瞬間に「渡具知さん当選確実」の速報が飛び込んだ。翁長雄志知事に何かを耳打ちした後、テレビ画面を指さして10秒ほど身動きせず、あぜんとした表情を浮かべた。

相手候補の当確に「うそだ！」と支援者の悲鳴が響いた。

「大変残念な結果になりました」。多数のカメラに囲まれ、宙を見つめて報道陣に敗戦の弁を述べた稲嶺さん。目頭を押さえながら、「新基地はまだ止めることができる。諦める必要はない」と声を絞り出すと、会場に大きな拍手が起こった。

アナウンサーの四つ目の質問で司会の男性が突然、会見を打ち切り、稲嶺さんの肩を抱いてテントから事務所内に誘導。報道陣がその姿を追いかける中、「メディア、もういいだろう」と支援者の怒号が響き、現場は騒然となった。

稲嶺さんは、二人三脚で選挙戦を支えた妻の律子さん（71）と事務所内に入ると、こらえきれずに涙を流した。事務所の窓は急きょ目張りされた。午後11時10分。「市長はいつまでも私たちの市長だ」との声援がこだまする中、無言で車に乗り込んだ。

保守系市長「チーム沖縄」に新たな主役 自公維の枠組み、県政奪還に大きな一歩

沖縄タイムス 2018年2月5日 05:00

翁長雄志知事ら「オール沖縄」勢力と政府与党の自民が激しい攻防戦を展開した名護市長選は、自民が公明、維新と推薦した新人の初当選を勝ち取った。名護市辺野古の新基地建設問題が最大争点となった名護を制したことで、辺野古の争点化が必至の知事選での県政奪還に大きな一歩を踏み出した。辺野古に反対する「オール沖縄」勢力はこれまで名護市の反対を後ろ盾としてきただけに、大きな痛手を負った。（政経部・銘苅一哲）

自民は1月の南城市長選で推薦した現職が敗れ、全県選挙の際に力を発揮する保守系首長「チーム沖縄」の中心人物を失ったが、新たな主役を得た。政党の枠組みは4年前

に自主投票だった公明との協力を再構築し勝利のカギを握った。維新を加えた新たな体制は知事選の土台となりそうだ。



当確を決め、取材陣に囲まれ質問に答える渡具知武豊氏＝4日午後10時33分、名護市大南の選挙事務所（下地広也撮影）

公明県本は辺野古に反対の立場を取りつつ「市長に工事を止める権限はない」として辺野古容認の自民と同じ候補を推薦した。一方で、埋め立て承認の撤回という最大の権限を持つ知事を選ぶ選挙では名護と同じ理論は当てはまらず、辺野古反対の立場と選挙対応の整合性が求められる。

「オール沖縄」勢力は辺野古反対の民意を示せなかったが、相手候補は辺野古の態度を明確にしなかったため民意は積極的な「容認」と言えず、工事が進んでいることへの有権者の諦めという側面が大きいとみられる。

昨年10月の衆院選では、4選挙区のうち3選挙区で「オール沖縄」勢力の辺野古反対の候補者が勝利した。知事選に向け、新基地建設阻止の具体性を全県的に広められるかが迫られる。

渡具知さん、擁立見直し迫られた「屈辱」をバネに 名護市長選、市民感覚に響く公約が浸透

沖縄タイムス 2018年2月5日 05:00

【名護市長選取材班】辺野古新基地建設などを争点にした4日の沖縄県名護市長選挙は、「市民生活向上」を訴えた渡具知武豊さん（56）が現職を大きく離し、初当選を果たした。保育料や給食費の無料化などの公約が幅広い層に広がり、自民、公明勢力で8年ぶりの市政奪還。目に涙をため、支持者と喜び合った渡具知さんは「名護の現状を国に話し、必要な予算をお願いする」と街づくりの進展を約束した。

テレビ各社の当確速報後、親族や支持者とガッツポーズをする渡具知武豊さん（手前右）＝4日午後10時56分、名護市大南の選挙事務所（下地広也撮影）
基地問題より「生活向上」訴え

「名護を変えてくれ。発展させてくれという強い思いがあった」。渡具知さんは高揚した声で支持者に感謝した。当選確実の報が午後10時28分、テレビに流れると、割れんばかりの歓声に包まれた選挙事務所。選挙戦では基地問

題に極力言及せず、保育料の無料化やごみ分別の簡素化など「市民感覚」に響く公約を連呼し、共感を広げた。目に涙をため、支えてくれた家族と喜び合った渡具知さん。「もっと明るいまちにする」と前を見据えた。

名護市役所前の選挙事務所には午後8時ごろから宮里達也後援会長らが待機。渡具知さんは盛大な拍手の中、午後10時に事務所入りして中央の座席に座り、硬い表情のままテレビに見入った。支援者からは報道各社の開票情報に「よっしゃ」「あー」と一喜一憂の音が漏れた。

当初は「勝てない候補」とみられていた。昨年7月、選挙委員会が渡具知さん擁立を決めたが、自民党本部から見直しを迫られた「屈辱」を家族の励ましで奮起に変えた。市内各地で数えられない回数の演説をこなし、地域や各年代に届く公約を強調。選挙中盤には喉を痛めながらも、声を張り上げ続けた。

公約実現の予算「国に願う」

「名護は基地問題だけではない」。市民の「変化への期待」を背に受け、盤石とみられた現職に追い付き、最後は大きく抜き去った。

報道陣から基地問題への対応を問われた渡具知さんは「国と県の裁判の行方に注視する。行政の長は法律に従う以上のことはできない」と述べた。公約を実現するための予算については「国に願う」と話し、振興策を中心とした街づくりを約束した。

支援者一人一人と握手を交わした渡具知さんは報道陣の問い掛けもそこそこに、各支部への当選あいさつ回りで事務所を後にした。

「移設先 本土の理解得られない」 安倍首相が沖縄基地負担減で言及

沖縄タイムス 2018年2月5日 06:09

安倍晋三首相は2日の衆院予算委員会で、沖縄の基地負担軽減について、「さまざまなプランを考えても日米間の調整が難航したり、移設先となる本土の理解が得られないなどさまざまな事情で、目に見える成果が出なかったのは事実」と述べた。これまでも移設先の説得に取り組んだことを強調してきたが、「本土の理解が得られない」との文言を用いるのは異例。

立憲民主党の阿部知子氏が、米軍普天間飛行場所属機の相次ぐトラブルなどを取り上げ、「主権無視、生命無視、子どもたち無視の状態をこれ以上我慢せよという政府の姿勢は容認できない。『日本を取り戻す』という（言葉に）沖縄は、入っているのか」と質問した。

安倍首相は「当然、沖縄も入っている。大きな基地負担をしてもらっている事実を重く受け止めている」と述べ、過去には「本土の理解」が得られず日米特別行動委員会（SACO）最終報告などで合意された県外への移転計画が進まなかったことを認めた。

一方で、安倍政権になってからは「一つ一つ結果を出してきている」とアピール。

安倍首相は1月の予算委でも空中給油機の岩国基地移駐について「ずっと解決できなかった。安倍政権が岩国市と山口県を説得し移駐が完了した」と発言していた。

安倍首相は実績を誇ったが、政府は2015年に普天間飛行場所属のMV22オスプレイの訓練拠点を佐賀空港に移転する計画を、地元の理解が得られないとして断念したこともある。

当時、沖縄が辺野古新基地建設に反対しても進める政府の対応の違いが指摘された。

安倍首相発言「県民ないがしろ」 翁長知事

安倍晋三首相が2日の国会で、沖縄の基地負担軽減が進まないのは本土の理解が得られないためだと発言したことに対し、翁長雄志沖縄県知事は「県民をないがしろにする理不尽なものだ」と不快感を示した。

3日、名護市内で記者団に語った。

知事は、首相発言は普天間飛行場の移設先を名護市辺野古と決める際に「抑止力や地理的優位性、軍事的合理性よりも政治的理由が重要であったことを示唆するものだ」と指摘した。

その上で、政府に対し、全会一致で普天間飛行場の即時運用停止を求めた県議会決議を受け止め「辺野古が唯一との固定観念にとらわれず、真摯（しんし）に沖縄の声に耳を傾けていただきたい」と訴えた。

【速報】名護市議補選：仲尾ちあき氏が安次富浩氏を破り当選

沖縄タイムス 2018年2月4日 23:21

名護市議会議員補欠選挙（欠員1）が4日、投開票され、無所属新人の仲尾ちあき氏が、無所属新人の安次富浩氏を破って当選を果たした。得票は仲尾氏が1万9782票、安次富氏が1万5927票だった。

最終投票率は76.71%だった。



名護市議補選に当選した仲尾ちあき氏